平成２７年度卒業式　学長式辞

愛媛大学長　大橋　裕一

ただいま、１，８３１名の皆さまに学位記を授与させていただきました。卒業される皆さまに心からのお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。

また、本式典にご出席のご家族、そして関係の皆様にも心よりのお慶びを申し上げます。併せまして、日頃からの本学に対するご理解とご支援に、この場をお借りし、深く感謝申し上げます。

さて、先ほど紹介させていただきましたように、本日の式典には愛媛県の各界を代表する方々に、そして愛媛大学にゆかりの深い諸先輩に来賓としてご臨席を賜っております。お忙しい中をお越しいただき、まことにありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

さて「大学卒業」というイベントは、人生における大きな節目であり、次なる目標へと向かう新たな船出でもあります。卒業される皆さまの多くは、「就職」という形で大学を巣立っていくこととなりますが、今後は社会の荒波の中、自らの力で進路を切り開いて行かなければなりません。在学中に習得した知識や技能、そして思考・判断力をさらに磨き上げ、自身のゴールへと邁進してください。

また、卒業生のうち、３２１名の皆さまは大学院へと進学し、勉学活動を続けられることになりますが、大学院においては、「研究」という形で、これまでよりも一層深いレベルの知識と技術の修得が求められます。探求と学びの姿勢を常に忘れず、「知の力」をさらに向上させてください。

平成 24 年、愛媛大学は「卒業時に身につけていることが期待される」５つの能力を「愛大学生コンピテンシー」として制定しました。この「コンピテンシー」は、「知識や技能を適切に運用する能力」、「論理的に思考し判断する能力」、「多様な人とコミュニケーションする能力」、「自立した個人として生きていく能力」、「組織や社会の一員として生きていく能力」から成っていて、いずれも社会人として活動していく上で不可欠なものばかりですが、卒業される皆さまにはこれらの能力が十分に備わっています。どうか自信をもって歩をお進めください。

とは言え、社会に出れば多くの試練が皆さまを待ち受けていることでしょう。これからの皆さまにさらに何が必要なのでしょうか？そこで私からは、愛大コンピテンシーにプラスすべき「６つ目の能力」として、「俯瞰力：大きな視点から物事を冷静に見つめる能力」の必要性をお話させていただきたいと思います。

大海を進むにあたってまず必要なのは「流れに乗る：Ride with the flow」ことです。その真逆は「流れに逆らう：Go against the flow」ですが、まったくの力の無駄でありこれは絶対に避けないといけません。ただ、「流れに乗る」と言っても主体的な行動

が伴わなければ、単に「流れに任せる　Go with the flow」だけになってしまい、安定した操縦はおぼつきません。ここでは「流れを読む：Read the flow」ことが不可欠であり、日頃培った「現場力」を駆使して、海流の速さ、岩礁の位置などを的確に把握し、安全な走行に結びつける必要があります。

でも、このままま っすぐに進んでいてもいいのでしょうか。先行きに少し不安を覚えませんか。ここで必要となるのが先にお話しした「俯瞰力」です。実際の流れを見定めるとともに、少し離れたところから、あるいはより高い位置から全体の流れを把握すべきなのです。

つい先日、鳴門へ渦潮見学に行く機会があったのですが、地上５０メートルの高さにある観潮施設からは渦潮全体の流れが手に取るように見えます。これはボートの中にいては決して得られることのない景色です。危険を避けつつ渦を乗り切る「現場力」も大切なのですが、より重要なのが流れ全体の方向性を見極める「俯瞰力」ではないかと思います。これはサッカーやラグビーなどの球技でも同じことです。ボールをどこに動かせば、より効率よくゴールに近づけるか、チーム全体の動きは高いスタンドからの方が把握しやすいのです。

鋭敏なセンサーで現場の情報を集め、全体の流れを冷静に鳥瞰する。これはカメラで言えばちょうど、Zoom in / Zoom out の操作にあたります。現場の状況を的確に把握する中で全体の流れを冷静に見通す～そのような能力を備えることができれば、皆さまの人生にもきっといい展開が生まれることでしょう。自由な角度から全体像を捉えるというコンセプトは、今、巷で話題の「ドローン」そのものだとも言えます。流れに乗る中で全体の流れを読み、最終的には自らが「流れを作る：Make the flow」、あるいは「流れを変える：Turn the tide」、そんな仕事を一人でも多くの方に成し遂げていただければと思います。皆さま、今すぐに Zoom in / Zoom out 戦略を始めてみませんか。

愛大コンピテンシーを身につけ、卒業されていく皆さまが、今後「俯瞰力」、いや「ドローン力」を大いに養われ、それぞれの分野で素晴らしい成果をあげられることを心より期待し、私からのはなむけの言葉といたします。